競技上の注意

1 競技は（公財）日本ソフトテニス連盟ソフトテニスハンドブック及び本大会要項に従って行う。

2 コート割り及び進行は別紙のとおりとする。ただし、本部の判断で変更することがあるので、本部からの放送には十分注意する。

3 使用球は公認球（白）を使用する。（団体アカエム、個人ケンコーを使用する。）

4 マッチは７ゲームとする（荒天等の理由により、変更することがある）。

5 選手・監督の変更届について

（１） 選手・監督に変更がある場合には、各「変更届」を（各県委員長確認の後）時間内に受付へ提出する。

（２） 各「変更届」は、そのコピーを各種変更届掲示板に掲示する。

6 個人戦について

（１） 受付を７：４０～８：００までの間に、監督が行う。

（２） 選手・ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）は時間までに指定された場所に集合する。

※ 準々決勝までは、マッチを行うコートに集合する。準決勝と決勝は招集所に集合し、入場を行う。

（３） コートへの入退場は進行委員・審判委員の指示に従うこと。

7 団体戦について

（１） ３ペアの点取り対抗戦とし、２点を先取したチームを勝者とする。ただし、いずれかのチームが本大会の初戦の場合は３マッチ全てを行う。

（２） 選手が６名に満たないチームは、第３マッチを零敗（不戦敗）したものとして扱う。

（３） 受付を７：４０～８：００までの間に、監督が行う。

（４） オーダー用紙の提出は以下に示す時間までに監督が「オーダー受付所」に提出する。

① １回戦・・・・・８：２０までに

② ２回戦以降・・・対戦相手確定（試合終了）後１０分以内

（５） オーダー用紙はフルネームで記入すること。用紙は３枚複写になっているので１枚は本部へ提出、１枚は挨拶時に相手チームと交換、１枚は自チーム控えとする。

（６） 選手・ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）は時間までに指定された場所に集合する。

※ 準々決勝までは、マッチを行うコートに集合する。準決勝と決勝は招集所に集合し、入場を行う。

（７） コートへの入退場は招集係・審判の指示に従う。 ←必要に応じて削除

（８） 試合前の円陣を行っても良いが、行う場合は同時に行う。

（９） サービス（レシーブ）とサイドの決定は、コートで各マッチの開始時に行う。

（10） 試合をしていない選手は、ベンチに座る。次の試合の選手がベンチから離れてコートの後ろなどでアップすることは認める。ただし、試合の妨げにならないようにし、ラケット・ボールなどは使用しない。

（11） 勝者の監督は、退場後に次の試合のオーダー用紙を受け取り、（４）に従って提出すること。

8 ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）について

（1） 団体戦・個人戦ともにベンチ入り指導者（監督またはコーチ）１名のベンチ入りを認める。

① 団体戦を２面同時展開で行う場合は、ベンチまたはベンチ入り指導者用いす（プライベートいすも可）は中央に置く。（１試合が残った時点でベンチを移動してもよい。）

② 個人戦で２ペア以上出場し、同時にマッチが行われている場合は、ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）は、「チーム招集所」に集合しなくてもよい。その場合、途中からのベンチ入りを認める。また、ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）がベンチを移動して助言することができる。ただし、一度離れたベンチに再び戻ることはできない。なお、プレーしているコートと隣接しているコートに限り、選手が移動して助言を聞くことを認める。

（2） マッチ中に選手に助言する場合は、サイドのチェンジおよびファイナルゲームに入る前のインターバルの１分以内（ヒートルール適用時は３分以内）とし、ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）が所定のベンチで行う。なお、それ以外の監督・コーチおよび応援者による指示（ブロックサイン等を含む）は禁止する。

（3） マッチ中、コート内で通信機器等や小型扇風機等の電子機器を使用することはできない。

（4） ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）はベンチから立たない。選手を座らせてアドバイスをする場合も、監督はベンチに座って行うか、ベンチの前に腰を下ろした状態で行う。

（5） 熱中症対策として、マッチ中試合のない選手はコート外での待機を認める場合がある。

9 競技について

（1） 番号の小さい方のチーム（ペア）のベンチを、審判台から見て左側とする。

（2） マッチ開始前の練習は１分以内とする。

10 かけ声・応援について

（1） 応援については、声をそろえての応援（いわゆる壁応援）を認める。

（2） 以下のような行為については、選手、ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）は「警告」の対象、応援団は「注意の喚起（または退場）」の対象となる。

（ア） 過度のかけ声、相手を不快にさせる発声、威圧的な発声や動作（相手に向かってのガッツポーズなど）は慎むこと。また、プレー・マッチをスムーズに進行させるため、アンパイヤーのコールを妨げたり、プレーに支障をおよぼしたりすることがないようにする。

（イ） ベンチ・応援団からの助言（次のプレーに関わる内容の指示・かけ声）。※ブロックサインを含む。

（3） 音の出る道具を使用しての応援は行わない。（うちわを使って音を出す場合は、音の出る道具と見なす。）

11 その他

（1） コート内へのクーラーボックスの持ち込みは可とする。

（2） ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）及び選手の傘（日傘を含む）のコート内での使用を認める。ただし、傘の色は、日光などを反射して試合に支障をきたす恐れがあるもの（白・銀色等）は認めない。（コート外の応援者・観戦者も、これに準ずる）

（3） 競技中のフラッシュ撮影は禁止する。

（4） スタンドのベンチは応援席とし待機場所にしない。また荷物を置いておいたり、常時使用したりしない。スタンドのベンチ前２列は、試合を行うチーム関係者を優先する。

（５） 部旗や応援横断幕の掲出は、本部の許可を得てから、指定された場所に行うこと。

（６） 招集時刻（及びオーダー提出時刻）の基準となる「対戦相手確定」とは、進行本部が試合結果を確認できた時刻とする。

12 審判上の注意

（１） 招集時刻になっても選手が集合しない場合、５分後に「警告」、さらに５分後に２回目の「警告」、それでも集まらない場合は５分後にレフェリー判断で「失格」とする。団体戦の場合、警告回数は第１マッチのペアに累積する。時刻は日本標準時（各携帯電話等で確認できる時刻）を基準とする。

（２） 身体上の理由によりマッチを中断する場合は、ベンチ入り指導者（監督またはコーチ）、及びベンチ外からのチームトレーナー等１名の入場や手当を認める。その際、マッチを中断した時点からタイムとして計測する。また、ベンチ外からチームトレーナー等の入場や医療用具等の持ち込みについては、コート主任または審判員の許可をとる必要がある。大会本部救護係等の入場については、大会本部が決定する。

（３） マッチは開始の挨拶から終了まで、連続的にプレーすること。審判の「レディ」「レッツプレー」のコールがかかったら速やかにプレーの位置につくこと。

例①：相手の準備が整っている状態で、ペアと打合せをしない。

例②：タイムの許可をとらないで靴の紐を縛り直すなどプレーの中断をしない。流れを変えるために靴の紐を縛り直すなどの行為は、「警告」の対象とする。

（ただし例②の場合、上記（２）の計測は行わない。ソフトテニスハンドブック競技規則第３７条(2)による）

（４） チェンジサイズ時やファイナルゲーム前は、前ゲーム終了時のコールから１分以内に次のゲームの準備ができるように配慮すること。４５秒でホイッスルがなる。６０秒で「レッツプレー」がかかる。ただし、ヒートルール適用時のファイナルゲーム前は、前ゲーム終了のコールから３分以内に次のゲームの準備ができるように配慮すること。２分４５秒でホイッスルがなる。３分で「レッツプレー」がかかる。チェンジサイズ時とファイナルゲーム前において、「レッツプレー」で、移動するそぶりがなければ「警告」の対象とする。

（５） コート外からの声掛けや援助は警告対象とする。ベンチにいる選手に対し、コート外から声掛けや日傘をさすなどの行動をしないようにすること。

13 熱中症対策

（１）熱中症対策として、チェンジサイズ時に体を冷やす目的でスポンジ、タオル、ミスト（霧吹き）を使用することや、ひしゃくでバケツの水をかけることを認める。

（２） ＷＢＧＴ＝２５℃以上の場合はチェンジサービス時及びファイナルゲームのチェンジサイズ時に「飲水タイム」を設ける。

（３）「飲水タイム」時の打ち合わせを行わないこと。給水後、速やかに試合を再開すること。

（４） 会場の気温（球乾温度）が３５℃以上または、ＷＢＧＴ＝２８℃以上の場合は、（１）に加え、ヒートルールを適用する。

（５） 「飲水タイム」もしくは「ヒートルール」を適用する場合は、監督会議時または、テニスコートの状況を見て、放送でその旨を知らせる。